

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和2年5月12日 ～ 令和3年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程に関すること ○生徒の実態を踏まえた教育課程の充実について</p> <p>II. 広報・相談体制の充実に関すること ○広く夜間中学校について周知を図る広報活動の実施について</p> <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること ○生徒の困りに応じた教職員の配置について ○教職員の資質・能力の向上を図る研修の実施や参加について</p> <p>V. 環境整備に関すること ○教育活動の充実に関わる環境整備について ○困りを抱えた生徒に対する相談活動の充実を図るための環境整備について ○生徒の心の安らぎに関わる環境整備について</p> <p>VI. その他夜間中学校における教育活動充実に関すること ○学ぶ意欲の向上と、社会認識を広げるための体験活動の充実について</p> <p>○多文化交流と日本の伝統文化にふれるための体験活動の充実について</p>
調査研究のねらい	<p>I. 教育課程に関すること ○生徒の実態を踏まえた教育課程の充実について</p> <p>洛友中学校では、これまで多く在籍していた戦中・戦後の混乱期に貧困や差別などで義務教育を受けることができなかった未就学生徒に加え、中国からの引揚者、朝鮮半島や中国からの新渡日生徒などが学ぶようになり多様化が進んだ。さらに、近年は東南アジアをはじめとした就労などによる新渡日生徒、形式卒業者も入学するようになり、多様化がさらに進んでいる。</p> <p>そのため、文字の読み書き・日本語指導・数学（算数）を中心に生徒それぞれに合うような自主制作教材（学習プリント等）を複数種類作成する。令和2年度より、国語・数学クラスを実態に合うように増やす（3クラスから4クラス編成に）ことで、より多種類の自主教材を作成する。また、国語・数学以外の教科においても、学級数は変更しないが、「教科の指導を通じた日本語学習」をカリキュラム・マネジメントの大きなテーマとし、その点</p>

を工夫した自主教材の作成を進めていく。また、学習内容の補充・確認に活用できる視聴覚教材や問題集などのような教材を整備していく。

さらに、近年増えつつある、上級学校への進学を希望する新渡日生徒や形式卒業生徒の学習にこたえる教材の作成や受験用の問題集などの学習教材も準備していく。

## II. 広報・相談体制の充実に関すること

○広く夜間中学校について周知を図る広報活動の実施について

これまで、本校入学のきっかけで一番大きな割合を占めているのが、いわゆる「口コミ」である。そのため、洛友中学校では、本校を必要とする未就学あるいは形式卒業者に対する周知を図るために、ホームページや市民しんぶんなどを通じた学校紹介のほか、教育委員会を通して、行政機関でのポスター掲示、チラシ配架などの広報活動を行っている。令和2年度からは、「教育機会確保法」の趣旨を踏まえ、入学資格を「市内在住者」だけでなく「市内在勤者」へも拡大し、府内在住者も入学が可能となったため、京都府内にも、ポスター掲示やチラシの配架を行うようにしていく。その他、学校公開の機会や人権にかかわる集会、講演会などの機会を利用して、チラシの配布を行い、今後、より積極的に多くの方に夜間中学の存在や意義を知っていただく。そのために、行政機関に配架するための印刷物だけでなく、広く配布するために、チラシや必要に応じた資料を印刷していく。

## IV. 教職員の配置・研修に関すること

○生徒の困りに応じた教職員の配置について

近年、外国籍生徒の入学が増えており、これまでの朝鮮半島・中国などからの入学者のほかに、昨年度よりモロッコからの生徒が、また、本年度にはネパールからの生徒が入学している。このように日本語に困りを抱えた生徒の国籍も幅広くなり、その結果、使用する母語も多言語化している。その実態に対応するために、日本語通訳、日本語ボランティア、学生ボランティアの効果的な配置と活用についての研究を進める。

○教職員の資質・能力の向上を図る研修の実施や参加について

外国籍生徒、形式卒業者など、多様な生徒の希望に応えるため、専門的・先進的な知識を習得する校内研修の開催、研修や研究発表会への参加、他中学校への視察などを通じて教職員の資質・能力の向上を図る。

## V. 環境整備に関すること

○教育活動の充実に関わる環境整備について

学習の定着に幅のある生徒の実態を踏まえ、誰でもがわかりやすい授業を実践するために、ICT環境の整備を図る。

	<p>○困りを抱えた生徒に対する相談活動充実を図るための環境整備について</p> <p>困りを持つ生徒の悩みなどに応えるため、個別の相談や指導を行う相談室などの環境を整える。</p> <p>○生徒の心の安らぎに関わる環境整備について</p> <p>国籍、年齢、学習の定着などについて、幅広く多様な生徒が互いにコミュニケーションを持てるような、交流スペースを開設しその充実を図る。</p> <p>VI. その他夜間中学校における教育活動充実に関すること</p> <p>○学ぶ意欲の向上と、社会性を広げるための体験活動の充実について</p> <p>洛友中学校は不登校特例校としての昼間部を併設し、学齢期の子どもたちと夜間部の生徒がともに学ぶ合同授業や校外学習、その他の学校行事を実施し、世代や国籍を超えてふれあい学びあう機会を積極的に設けている。合同授業や校外学習、その他の学校行事の機会を通じて様々な体験活動を実施し、学齢期の子どもたちと夜間部生徒の交流を深め、体験から得た学びや経験を通じて生徒の学ぶ意欲や社会性を育てている。</p> <p>この取組について、前・後期に昼間部生徒・保護者、夜間部生徒からアンケートをとり、経年評価を行うことで、成果の分析材料とし、次年度により良い活動となるように結びつけていく。</p> <p>また、球技大会や文化祭などの取組を公開できるような形で運営し、併設校としての取組を広く発信するとともに、それぞれの生徒の自己肯定感や社会性の向上に結びつける。</p> <p>○多文化交流と日本の伝統文化にふれるための体験活動の充実について</p> <p>多様な生徒が在学する中で、互いの文化や風習を理解し、交流と協働を図るため、多文化交流に関わる体験活動の企画や行事に参加する。また、日本の伝統文化を体験することにより、日本への理解を深め、社会性を身につける。</p>
調査研究の成果	<p>I. 教育課程に関すること</p> <p>○生徒の実態を踏まえた教育課程の充実について</p> <p>多様な国籍、幅広い年齢層の生徒のニーズに応えるために、教育課程の編成及び指導内容の工夫の二点を中心に取組を行った。</p> <p>【教育課程の編成について】</p> <p>今年度も国語の時間を多く設けるなかで、教科外担任制を取り入れ、国語及び数学を4講座に分けることで、日本語の定着、学力状況に応じた学級編成を行った。また、今年度から新たに</p>

「言葉の学び」という講座を開設し、書籍による学習に加え、ボイスレコーダーを活用した日本語の聞き取り学習を行うなど、個々の生徒の語学力や課題等に応じた授業を展開した。他の教科においても、習熟度別の3講座に分け、日本語の習得を意識した内容から進学を見据えた内容まで、生徒の学力状況などに応じた編成とした。

【指導内容の工夫について】

「教科の指導を通じた日本語学習」をカリキュラム・マネジメントの大きなテーマとし、各教科の教科書に加え、テキストや参考書を引用するなど、生徒の実態に合わせた多くの教材を独自に作成し、日本語の定着を教科等横断的な視点で実現できるよう、授業展開の工夫を行った。

また、日本語に困りを抱える生徒が増加していくことに対応するため、教育課程外での補習授業に力を入れ、日本語の読み書き、漢字の学習など、日本語学習に特化した内容で指導している。これは、国語の時間以上に細分化した編成となり、効率的な学習となっている。また、翻訳機、電子辞書等を最大限活用することで、会話の面でも効果をあげている。

<学校評価・生徒アンケートの結果>

- ・「授業はわかりやすい」の年間評価は3.2（満点4）と、高い点数となった。
- ・「先生は教材や教え方を工夫している」の年間評価は3.25（満点4）と、高い点数となった。

II. 広報・相談体制の充実に関すること

○広く夜間中学校について周知を図る広報活動の実施について

入学志願者へ本校の存在を知った理由を聞き取ると、これまでと同様に「口コミ」を通して学校を知ったという方が大半であるが、チラシ・ホームページによる取組の紹介、「学校だより」などの印刷物の地域配付や掲示などで、これまでにはなかった遠方からの入学希望者や、交流のある「読み書き教室」を通して学校のことを知った方などが見られるようになってきた。

入学生徒の募集にあたっては、毎年、「生徒募集案内」を作成し、洛友中学校・教育委員会をはじめ、図書館や区役所など市内37か所に配架し、周知を行っているが、令和2年度の入学者から、入学資格を京都市内在住に加え、京都市外在住で市内通勤の方にも拡大したため、夜間中学における学びを必要としている方

により効果的に周知ができるよう、京都府教育委員会と連携し、配架場所の拡充を行った。

具体的には、京都府下の各教育委員会、公民館、図書館、社会福祉協議会、福祉事務所、ハローワーク、地域若者サポートステーション、京都府国際センター等へ合計約3千枚の「募集案内」を配布した。また、夜間中学校を必要としている形式卒業者にも夜間中学校の存在を届けるために、京都市立中学校、小中学校、総合支援学校にも入学者募集について通知し、周知を行った。

上記による周知の結果、令和3年度入学者募集は、市外通勤者1名、形式卒業者3名から志願があった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当初計画していた学校公開や人権にかかわる集会等の機会を利用した広報活動は行うことができなかった。

#### IV. 教職員の配置・研修に関すること

##### ○生徒の困りに応じた教職員の配置について

近年、朝鮮半島・中国出身者のほかに、東南アジアからの渡日生徒が在籍しているため、会話面で配慮を要する生徒に対して、日本語ボランティア、学生ボランティアを配置しており、他の生徒、教職員との円滑なコミュニケーションに効果を上げている。

##### <配置実績>

- ・日本語ボランティア：2名
- ・学生ボランティア：4名

##### ○教職員の資質・能力の向上を図る研修の実施や参加について

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、校外研修への参加は行わず、校内研修のみの実施とした。校内研修では、教職員に対し、生徒理解にかかわる研修を行い、形式卒業者の多くが抱える特性について学ぶ機会を設け、自校の生徒への支援に生かすことができた。また、コロナ禍において必要性がより高まっているICTに関する研修も行い、オンラインでの学習やアプリを活用しての学習など、今後のICTを活用に向けた取組を進めた。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、全国夜間中学校研究大会など、当初実地での参加を予定した事業はオンライン開催となった。また、他の夜間中学校への視察は行えなかった。

#### V. 環境整備に関すること

##### ○教育活動の充実に関わる環境整備について

GIGAスクール構想の開始により、京都市においても、タブレット

ト端末の全生徒への配備や高速通信ネットワークの整備など、ICT教育環境の充実が進んでいる。これらを活用し、効果的な授業を展開するため、昨年度各教室に設置したプロジェクターの有効活用について研究を行い、各教科で視聴覚教材の作成を行った。授業で視聴覚教材を積極的に活用することにより、生徒にとってよりわかりやすい授業を展開することができた。

○困りを抱えた生徒に対する相談活動の充実を図るための環境整備について

○生徒の心の安らぎに関わる環境整備について

困りを抱える生徒の個別学習の場所、クールダウンできる場所として、校内に「相談室」を開設した。学習教材や書籍などを整え、「居心地の良い環境」づくりを進めた。また、生徒の憩いの場として、校内に「交流スペース」も開設した。交流スペースについては、多様な生徒の中で孤立しがちな形式卒業生徒の交流の場・憩いの空間としての利用にとどまらず、教育相談などの場としても利用されている。

<学校評価・生徒アンケートの結果>

- ・「悩んでいることや困っていることを先生に相談している」  
前期 3.3 後期 3.6 (満点は4)
- ・「悩みごとを家族やともだちに話している」  
前期 3.0 後期 3.3 (満点は4)

## VI. その他夜間中学校における教育活動充実に関すること

○学ぶ意欲の向上と、社会認識を広げるための体験活動の充実について

今年度の昼間部との交流も含む体験活動については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、当初計画したものがほとんどを中止・縮小としたが、昼間部と合同の修学旅行は府内及び隣接県において1泊2日で実施し、現地でもグループ別に各部のよさを実感できるようレクリエーションの持ち方も工夫した。また、染物体験など新しい校外活動を実施したり、校外活動を校内でのレクリエーションに変更するなど、教科学習以外の活動の充実も図るようにした。しかし学校行事の公開は行えず、生徒の家族や地域の方が学校の活動を知り、学校や生徒に関心を示すことは、生徒の自己肯定感の獲得につながるが、例年と比べるとその成果は十分でなかった。

昨年度の学校評価アンケートにおいて、「互いに交流することを楽しいと感じている」ことを表す評価は3.8(満点4)であったが、今年度の前半は活動が制限されたことで、前期の評価はやや低く、3.5となった。しかし、10月以降は注意を払いながら少しずつ活動を増やしたことで、後期の評価は上昇に転じ、3.6となった。

コロナ禍のように活動が制限される際には、交流活動をどのような形で行えば目的に近い成果が得られるか、今後検討していく必要がある。

○多文化交流と日本の伝統文化にふれるための体験活動の充実について

市内で毎年開催される「民族の文化にふれるつどい」、また、外国籍生徒の母国の文化にふれる体験学習として計画したネパール料理の学習も新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止となった。これらに代わる取組として、世界の文化を紹介する資料の校内掲示、教科学習の中で外国文化を取り上げる機会を多くした。また、小型のキーボードを多くの生徒が一斉に扱えるよう購入し、日本の童謡や外国の曲などを演奏することで、国内外の文化に親しむ機会を設けた。